

令和6年度(2024 年度)事業報告書



NPO法人くるみ-来未

令和 6 年度(2024 年度)事業報告

NPO法人くるみー来未（以下、「くるみ」と記載）

はじめに

初めてくるみの事業報告書を目にする方のため、くるみについて簡単にご紹介します。私たちは「自閉症支援を通じたインクルーシヴ社会の実現」を目指すNPO法人です。2014年に設立し、事業活動は今年で12年目を迎えます。

<くるみが取り組む社会課題>

現代社会において知的・発達障害等のある人と家族の生活環境はとても厳しい。保育園での入園拒否、学齢期のいじめや体罰、部活に参加できない、成人期には離職や生活困窮、家庭以外の居場所がなく引きこもりがちになる等の課題があり、ライフステージを通して親子で孤立しがちな現状がある。また、制度のはざまに居る当事者の場合、一般社会になじむことができず、福祉につながることもできないことで状況が深刻化しやすいが、自己責任の名のもとに放置されてしまいがちである。神奈川県では「ともに生きる社会かながわ憲章」を掲げ、共生社会の実現に向けた取り組みを進めているが、通所・入所施設における虐待事件が後を絶たない。障害のある人や家族に対する社会の理解や支援の不足は深刻であり、「多様性をみとめあう社会」とは程遠い現状がある。

<課題に対する行政等による既存の取り組み状況>

行政は福祉サービスの拡充を進め、障害児者の通所先は増加傾向だが、依然として以下のような課題がある。

- ① 障害福祉サービスの供給量不足により、必要とする人に届いていない
- ② 成人期の居場所が足りない
- ③ 制度の狭間にいる当事者への支援が不足している
- ④ 障害福祉サービス以外に地域とつながりが持てる機会が少ない
- ⑤ 高齢者など隣接的立場で支援が必要な層との一体的な支援の取り組みが不足している
- ⑥ ③④⑤のような居場所や事業活動の「担い手」を育てる仕組みが不足している。

上記のように障害のある人と家族にとって非常に厳しい社会状況であることを踏まえると、公助の拡充は引き続き重要な課題である。しかし、経済の停滞、所得水準の低下、格差の拡大、不寛容や自己責任論の風潮が強い現代社会において、障害福祉サービスが大きく拡充できる環境ではない。また、地域においては、少子高齢化や共働きの増加に伴い、町内会や民生・児童委員などの地域活動は先細っている。そして、各家庭においては、時間的・経済的余裕がなく、困り事が家庭の中で抱え込まれがちな状況である。すなわち、公助・互助・自助のいずれもが、今後の拡充が期待しづらい社会環境である。

なお、川崎市が策定する「第5次ノーマライゼーションプラン(障害福祉施策の総合計画)」では、公助・共助の役割は引き続き重要としつつ、互助(インフォーマル・サポート)の重要性について次のように記載されている。「自立した生活の維持に向けて、インフォーマル・サポートが地域の中で提供されるよう、多様な主体の役割分担による『互助』を支える仕組みづくりを進める(P.58/川崎市地域保活ケアシステム推進ビジョンに基づく取組の推進)」。

<くるみの目指すビジョン・ミッション・活動コンセプト>

上記のような環境の中、私たちくるみは、自閉症などの発達障害、知的障害のある人の親が中心となり、専門家やボランティアの力を借りながら、以下のビジョン・ミッション・活動コンセプトに沿って事業活動を展開している。

●ビジョン(何のために?)

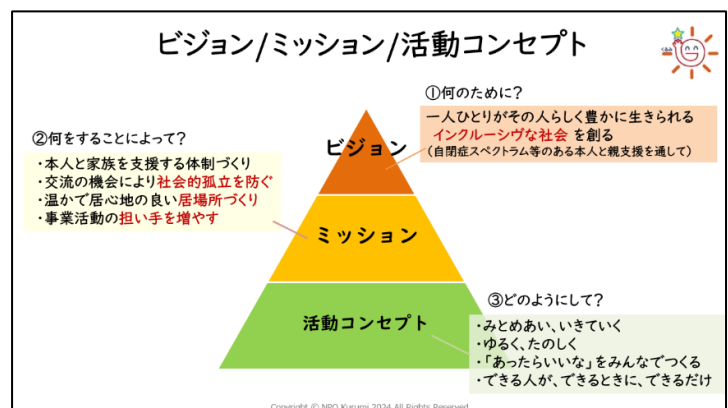
一人ひとりがその人らしく豊かに生きられるインクルーシブな社会の実現
(自閉症支援を通したインクルーシブな社会の実現)

●ミッション(何をすることによって?)

- ・本人と家族を支援する体制づくり
- ・交流の機会を生み出し社会的孤立を防ぐ
- ・居心地の良い居場所をつくる
- ・事業活動の担い手を増やす

●活動コンセプト(どのようにして?)

- ・みとめあい、いきていく
- ・ゆるく、たのしく
- ・「あったらいいな」をみんなでつくる
- ・できる人が、できるときに、できるだけ



<団体の特徴と事業活動について>

正会員数は28名(2025年6月現在)、活動参加者数は延べ3,530人となっている。正会員は、障害のある子を育てる親を中心に、社会福祉士、特別支援学校の元教員、社会保険労務士、就労支援員などの専門家や市民活動家などが主な構成員となっている。

障害福祉サービスの事業所を運営している訳ではなく、助成金や寄附金を主な原資としたインフォーマルな事業活動を展開している。インクルーシブな社会の実現というビジョンに賛同して下さる多くの方から多大な応援とご支援を頂きながら運営して12年目となる。

法人の事務所兼活動拠点として、川崎市中原区上平間地区にある「くるみのおうち」を2020年2月に開所した。月1~2回ほどの頻度で当事者・家族・支援者に向けたイベントや事業活動を行っている。



1. 報告期間 令和 6 年(2024 年)4 月 1 日から令和 7 年(2025 年)3 月 31 日【第 11 期】

2. 本年度の事業活動(総括)

前年度に引き続き、川崎市中原区上平間にある法人活動拠点「くるみのおうち」を中心に、「インクルーシブな社会づくり」に寄与するための事業活動を以下の通り実施しました。

- 自閉症など障害や特性のある本人と家族に向けたイベントや活動を実施(月 1 回程度)。
- 青年当事者の居場所づくりとして食事会、イベント企画、生き方を考える会などのピア・サポート活動を実施(月 1～2 回程度)。
- 川崎市社会福祉協議会福祉人材バンク様からの依頼を受け、研修会への講師派遣を行った。
- 個別の相談対応 計 20 回

正会員・理事会・事務局・スタッフ・参加者のみなさんにご尽力頂き、厳しい状況にある人たちへの相談援助も含め、必要とされる事業を届けられるよう努力しました。事業活動への参加者からのアンケート結果や、相談者とのその後の良好な関係の構築も含めて、良い成果を残すことができました。本年度も無事に一年を終えることができたこと、関係者の皆さまに改めて感謝いたします。

3. 本年度の事業活動(詳細)

※ 以下の事業別損益表では、各事業の名称を次の通り表記しています。
「インクルーシブな地域社会づくりに寄与するための事業」⇒「インクルーシブ事業」
「自閉症スペクトラム当事者等のライフスキル向上に寄与するための活動支援事業」⇒「ライフスキル事業」
「自閉症スペクトラム当事者等に関する普及啓発事業」⇒「普及啓発事業」
「自閉症スペクトラム当事者等のライフスキル・就労・成年後見に関する情報提供事業」⇒「情報提供事業」

① 情報提供事業

費用額: 4,613円 従事人数: 計4名 参加人数: 11名

事業内容	日にち	時間	従事者 人数	参加 人数	場所	対象者
おやじの会 (父親同士の交流会)	2024年6月9日	20:00～22:00	2	4	くるみのおうち(リアル)	知的・発達障害のある子の父親
	2024年9月15日	11:00～15:00	2	7	くるみのおうち(リアル)	
小計	計2回		4	11		

【おやじの会】

「コロナ禍で交流の機会が全くゼロになって困っている」という父子家庭の方からの切実な声があったことをきっかけに4年前から実施しています。対象は「知的・発達障害のある子の父親」です。「障害のある子を育てる父親同士」だからこそ分かり合えるピア・サポートの場となっています。計2回のおやじの会を実施し、参加延べ人数は 11 人でした。新規参加者が増え、新たな話題提供があり、とても活況な情報交換の場となりました。気軽な会話の中で、地域の情報交換、学校生活の乗り切り方、グループホームの探し方についてなどの相談などができるのは非常に大きな意味を持つことを実感しています。参加をご希望の方は、どうぞお気軽にお問い合わせください。(連絡先: kurumi.oyajinokai@gmail.com)

※ 本活動は、神奈川心身障害児福祉基金財団様より助成金をいただいで実施しました。

② 普及啓発事業

費用額: 184,310円 従事人数: 計18名 参加人数: 116名

事業内容	日にち	時間	従事者 人数	参加 人数	場所	対象者
発達障害研修(対面)	2024年10月18日	10:00～12:00	2	17	エポックなかはら	一般市民
	2024年10月18日	13:30～15:30	2	17		
チョコレートな人々上映会	2025年2月8日	10:00～12:00	7	40	かわさきゆめホール	
	2025年2月8日	14:00～16:00	7	42		
小計	計4回		18	116		

〔発達障害研修〕

川崎市社会福祉協議会福祉人材バンク様からの依頼により、発達障害研修の講師を務めました。5 年目となる今回のテーマは原点に返って「知的・発達障害のある人とその家族を支えるために」。10 月 18 日(金)に対面で午前・午後の 2 回実施しました。親の立場、そして支援者の立場から、これまでの子育てや支援活動の実体験で得られた学びと気づきをお伝えさせていただくとともに、参加者同士でのワークも取り入れることで、みなさんで考えを深め合う良い機会となりました。

〔チョコレートな人々上映会〕

くるみは 2024 年 2 月に設立 10 周年を迎えたこともあり、10 周年記念事業として 2 月 8 日(土)にドキュメンタリー映画「チョコレートな人々」の上映会を実施しました。午前、午後の2回開催し、計 82 名の方にご参加いただきました。「低賃金が当たり前の障害福祉の世界に真っ向から立ち向かう久遠チョコレート代表の夏目さんの姿に共感した」というアンケートの回答が多く見られました。障害に関する普及啓発に留まらず、「私たちはどのような社会づくりをしたいのか?」という問いかけを私たち一人ひとりがもっと意識して、行動に移していくことの大切さを感じられる機会となりました。

※ 本上映会は、神奈川心身障害児福祉基金財団様より助成を受けて実施しました。

③ ライフスキル事業

費用額: 692,806円 従事人数: 計34名 参加人数: 128名

事業内容	日にち	時間	従事者 人数	参加 人数	場所	対象者
何やる会(青年の自主的活動)	2024年4月14日	12:00～16:00	2	5	くるみのおうち	知的・発達障害のある本人 と家族
	2024年6月30日	11:00～16:00	1	5		
どかい (青年当事者の生き方を考える塾)	2024年4月20日	10:00～12:00	2	3	くるみのおうち	
	2024年5月4日	10:00～12:00	2	3		
	2024年5月18日	10:00～12:00	2	3		
	2024年6月15日	10:00～12:00	1	3		
	2024年6月29日	10:00～12:00	1	3		
	2024年7月27日	10:00～12:00	2	3		
くるみ青年部 (青年の自主的活動 ※年度後半に立ち上がった活動)	2024年11月3日	11:00～16:00	2	7	くるみのおうち	
	2024年12月8日	10:00～12:00	2	6		
	2024年12月22日	12:00～16:00	2	8		
	2025年2月16日	10:00～15:00	2	7		
	2025年3月30日	11:00～16:00	1	4		
流しそうめん	2024年7月13日	10:00～15:00	4	17	黒川青少年野外活動センター	
バスハイク	2023年6月3日	8:00～18:00	5	29	聖天宮・川越・鉄道博物館	
おもちつき	2025年1月18日	10:00～15:00	3	24	黒川青少年野外活動センター	
小計	計16回		34	130		

本事業のメイン対象は「自閉症スペクトラムのある人と親」。目的は「本人のライフスキル(生きる力)向上に寄与するための活動を支援する(定款第 5 条より)」ことです。本年度は黒川青少年野外活動センターさんでアウトドアイベントを 2 回実施(流しそうめん／おもちつき)。そして川越方面へのバスハイクを実施しました。すべてのイベントで募集定員近くのお申し込みをいただき、大好評でした。家族だけでは実現しづらい野外へのお出かけイベントを、施設やボランティアの力を借りて実現することができたこと、関係者のみなさまに感謝申し上げます。

昨年度に引き続き、「どかい(土曜の会)」を計 6 回行いました。これは、「青年たちが自らの生き方を考えるための場」として実施しました。誰もが生きづらさに悩むことの多い現代社会において、「自分らしく、豊かに生きる」ためにはどうすればいいのか? 様々な素材や事象を元に、意見を述べ合い、お互いの気づきを共有する時間を重ねました。

「やりたいことを実現させる場を創りたい! という思いの青年たちを中心に 4 月にお花見、6 月に映画鑑賞会を行いました。その後、メンバーも替わり、11 月以降に「くるみ青年部」として活動を継続。バーベキューやボードゲームなどの活動を行いました。

※ どかい／何やる会／くるみ青年部は事業活動の特性上、一般に公募はせずクローズドな場として実施しました。

※ ライフスキル事業は、神奈川心身障害児福祉基金財団様／川崎市幸区社会福祉協議会様より助成金をいただいて実施しました。

④ インクルーシブ事業

費用額: 294,491円 従事人数: 計38名 参加人数: 6名(参加人数に、マルシェ・フェスティバルへの来場者数は含まれていない)

事業内容	日にち	時間	従事者 人数	参加 人数	場所	対象者
上平間ふれあいマルシェ	2024年5月26日	10:00～14:00	12	0	なかはら看多機	一般市民
	2024年10月27日	10:00～14:00	13	0		
くるみカフェ	2024年11月2日	10:00～15:30	3	6		
上平間なかよしフェスティバル	2024年12月7日	10:00～14:00	10	0		
小計	計4回		38	6		

上平間地区の事業所や団体が協働して実施する「上平間ふれあいマルシェ」に2回参加し、珈琲、壺焼き芋、日用品の販売を行いました。地域で青年スタッフの活躍の場を生み出すとともに、美味しいものやお買い得な日用品を準備し販売することを通して地域の人たちとつながり、お互いを知り合い、賑わいと笑顔を生み出す良い機会とすることができました。また、12月には「上平間なかよしフェスティバル(川崎市主催)」が12月に平間公園で行われ、珈琲と壺焼き芋の販売を行いました。この会は会場が平間公園、かつ近隣の小学生も参加していたこともあり、多くの親子連れのお客様が来場し、とても活気のあるフェスティバルとなりました。

11月にはくるみカフェを実施しました。これは法人拠点の「くるみのおうち」で行っている、どなたでもご参加いただける「お話し会」です。美味しいコーヒーとスイーツでおもてなしさせていただきつつ、集まった人たちが気楽なおしゃべりを楽しみました。どなたでもご参加いただける場として定着しており、今後も継続していきたいと考えています。

※ 上平間ふれあいマルシェ／平間公園なかよしフェス／くるみカフェは、メディホープかながわ様より助成金をいただいて実施しました。

4. 活動参加者／支援者に関する報告

活動への参加者、従事者、寄付者の数は以下の通りです。本年度は「チョコレートな人々」の上映会を行ったため、活動への参加者は大幅に増加しました(前年度は上映会を実施していない)。活動への従事者は前年度より減少しましたが、一部の青年スタッフはくるみの活動を支えるコア人材に育ってくれており、少数精鋭体制で月1回ほどの活動を年間通して実施することができました。

正会員・寄付者のみなさまのご協力にも改めて感謝申し上げます。私たちの事業活動は、支援者のみなさまに支えて頂くことで成り立っています。引き続き、ご参加・ご支援・ご寄付などにより、くるみの運営を支えて頂ければ幸いです。

- ・活動参加者 273名(+88名)
- ・活動従事者 75名(▲31名)
- ・正会員数 28名(±0名)
- ・寄付者 52名(+3名)

※ () 内は前年比増減を示す
※ 活動参加者／活動従事者数は延べ人数

5. 事務局に関する報告

事務局は、組織の基盤として事業とのバランスを取りながら両輪で運営していく必要があります。くるみで行っている事業活動の屋台骨を支える事務局の活動内容は以下の通りです。

〔事務・管理面〕

- ・所轄庁(川崎市)、法務局、税務署、労務に関わる各種手続き
- ・認定および条例指定維持のための各種手続き

・税理士事務所との顧問契約を継続、サポートを受けながら税務会計処理を実施

〔くるみのおうちの管理〕

昨年度より「くるみのおうち管理責任者」と「イベント推進リーダー」を中心に各事業を展開しました。各イベントや事業活動の成功の裏には事務局の大変な努力と工夫があります。綿密な打ち合わせや数々の事前準備は、参加して下さる方々が気持ち良い時間を過ごしてもらえるように、との思いの表れで、くるみの事業活動のコア部分を形作っています。今後もこの体制を維持していきたいと考えています。

6. 財務諸表に関する報告

〔貸借対照表〕

・総資産は約 398 万円で、対前年比▲10 万円となりました(固定資産の減価償却分、正味資産が減少)。

〔活動計算書〕

・収入の部は、助成金、会費・寄付、事業収益による収入により、合計約 122 万円となりました(対予算+23)。

・支出の部は、事業費・管理費合計で約 133 万円となりました(対予算+18)。

・この結果、単年度収支は▲11 万円の赤字となりました。

大口の助成金に頼ることができない情勢の中、自立的な運営を心掛けました。収入の部ではマルシェやフェスでの販売活動が好調で売上が想定より増加しました。支出の部では、土業家向け支払い／新拠点立ち上げ検討に伴う旅費交通費の増加／減価償却費の支出が増加しました。

単年度収支は赤字ではありますが、前年度との比較において収支は大幅に改善させることができました。また、厳しい収支状況の中でも新たな事業の種蒔きとしての支出は積極的に行うよう努めました。

以上